



平成 22 年 12 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 22 年 7 月 30 日

上場会社名 アサヒビール株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 2502 URL <http://www.asahibeer.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 泉谷 直木
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 森田 健 (TEL) 03(5608)5126
 四半期報告書提出予定日 平成 22 年 8 月 11 日 配当支払開始予定日 平成 22 年 9 月 1 日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成 22 年 12 月期第 2 四半期の連結業績 (平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22 年 12 月期第 2 四半期	667,411	△0.4	24,692	15.0	27,864	0.1	15,544	△29.5
21 年 12 月期第 2 四半期	670,156	—	21,479	—	27,829	—	22,053	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22 年 12 月期第 2 四半期	33.42	33.38
21 年 12 月期第 2 四半期	47.44	47.43

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22 年 12 月期第 2 四半期	1,388,301	579,574	41.5	1,239.35
21 年 12 月期	1,433,652	577,702	40.0	1,233.25

(参考)自己資本 22 年 12 月期第 2 四半期 576,552 百万円 21 年 12 月期 573,473 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21 年 12 月期	—	10.00	—	11.00	21.00
22 年 12 月期	—	10.50	—	—	—
22 年 12 月期(予想)	—	—	—	10.50	21.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成 22 年 12 月期の連結業績予想 (平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	1,487,000	1.0	93,000	12.3	100,000	10.4	52,000	9.1	111.78

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有
(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

22年12月期2Q	483,585,862株	21年12月期	483,585,862株
22年12月期2Q	18,381,764株	21年12月期	18,576,966株
22年12月期2Q	465,154,515株	21年12月期2Q	464,835,306株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
4. 追加情報	13
(1) 補足資料	13

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成22年1月1日～6月30日）におけるわが国経済は、企業収益の改善や個人消費の持ち直しなど一部回復の兆しは見られるものの、前期に引き続き厳しい環境が続いております。

酒類業界におきましては、景気低迷による生活防衛意識や節約志向の高まりにより新ジャンルは伸長したものの、天候不順の影響などによりビール・発泡酒がともに減少したため、ビール類全体の課税出荷数量は前年同期比4.5%減となりました。同様に、飲料業界におきましても、業界全体の販売数量は前年同期比2%程度減少したものと推定されます。

このような状況の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,674億1千1百万円（前年同期比0.4%減）となりました。また、利益につきましては、営業利益は246億9千2百万円（前年同期比15.0%増）、経常利益は278億6千4百万円（前年同期比0.1%増）、四半期純利益は155億4千4百万円（前年同期比29.5%減）となりました。

事業の種類別セグメントの概況は次のとおりであります。

酒類事業

酒類事業につきましては、“変革へ向かって、動く”をスローガンに掲げ、『アサヒスーパードライ』と『クリアアサヒ』を中核ブランドとして強化・育成するとともに、生産・販売体制の見直しなどによる収益構造改革を推進し、経営環境の変化に左右されない収益基盤の更なる強化に取り組みました。

（ビール・発泡酒・新ジャンル）

ビールについては、旗艦ブランドである『アサヒスーパードライ』の更なる育成に注力しました。売上の一部を47都道府県の実地環境保全や地域貢献に活用していただく“「うまい！を明日へ！」プロジェクト”第3弾の実施や「エクストラコールドバー」の新店、「エクストラコールドクーラー」キャンペーンの展開など、ブランド価値をさらに高めるための情報発信や販売促進活動を展開しました。

発泡酒については、お客様の健康志向ニーズに対応した“糖質ゼロ”※1の『アサヒスタイルフリー』のクオリティアップを実施するなど、既存ユーザーの満足度をさらに高める活動に注力しました。

新ジャンルについては、『クリアアサヒ』、『アサヒオフ』の味やパッケージを刷新するクオリティアップを実施するとともに、『クリアアサヒ』については樽詰を発売するなど、拡大する“麦の新ジャンル（リキュール（発泡性）①）”における磐石な地位確立に向け、積極的なブランド訴求、販売促進活動を展開しました。また、お客様の価値観の多様化に応えるべく、3月に『アサヒストロングオフ』を新発売するなど、市場の活性化にも取り組みました。

さらに、2月に開催されたバンクーバー冬季オリンピックのJOCゴールドパートナーとして、日本代表応援デザイン缶の発売や連動した広告・販売促進活動を展開しました。

以上の結果、新ジャンルの出荷数量は前年を上回りましたが、ビールと発泡酒の出荷数量は市場全体の低迷などにより前年を下回り、ビール類トータルでは前年同期比3.9%減となりました。

※1 栄養表示基準に基づき、糖質0.5g（100ml当たり）未満を“糖質ゼロ”としております。

（焼酎・低アルコール飲料・洋酒・ワイン）

焼酎・低アルコール飲料・洋酒・ワインの各カテゴリーについては、これまで進めてきたブランドの育成・強化とともに、収益性の向上に引き続き取り組みました。

焼酎カテゴリーにおいては、『芋焼酎かのか黒麹仕込み』のリニューアルや本格芋焼酎『薩摩こく紫』の発売など、乙類焼酎市場におけるプレゼンス拡大に取り組みました。しかしながら、取引条件の見直しなどにより『大五郎』の販売が低調に推移したため、焼酎トータルの売上高は前年同期比2.0%減となりました。

低アルコール飲料カテゴリーにおいては、カロリー最少級※2の缶チューハイ『アサヒ Slat（すらっと）』のブランド強化や国産果汁を使用した『アサヒチューハイ果実の瞬間』の発売など、ブランド育成と新価値提案に努めました。しかしながら、商品ポートフォリオの見直しなどにより、低アルコール飲料トータルの売上高は前年同期比4.7%減となりました。

洋酒カテゴリーにおいては、『ブラックニッカクリアブレンド』が36ヶ月連続で前年を上回る販売数量を達成するとともに、5月に『ブラックニッカクリアハイボール』を発売したことなどにより、国産ウイスキーの販売が好調に推移しました。また、『竹鶴21年ピュアモルト』が「ワールド・ウイスキー・アワード（WWA）」※3で世界最高賞を受賞するなど『ニッカ』ブランドの品質が世界にも認められました。以上の結果、洋酒トータルの売上高は前年同期比8.3%増となりました。

ワインカテゴリーにおいては、国産ワインでは、『酸化防止剤無添加有機ワイン』や『酸化防止剤無添加ワイン物語』といった基幹ブランドの強化を図りました。また輸入ワインでは、『バロン・フィリップ』や『ルイ・ラトゥール』など重点ブランドを中心にブランド訴求の強化や多彩な商品ラインアップを生かした拡販に努めましたが、中高級市場の低迷や市場の低価格化の影響により、ワイントータルの売上高は前年同期比8.8%減となりました。

※2 現在発売されている缶チューハイ市場において。(平成22年6月現在)

※3 英国のウイスキー専門誌「ウイスキーマガジン」が主催する、ウイスキーのみを対象とした国際コンテストです。

(国際酒類事業)

国際酒類事業につきましては、中国ビール事業において引き続き「青島啤酒股份有限公司」との間で、戦略的パートナーシップの強化を図りました。両社の各部門での交流を通じて具体的な提携施策の実現に向けて取り組みをさらに進めております。また、韓国、台湾、オーストラリアを始めとしたアジア・オセアニア地域において、『アサヒ スーパードライ』を中心としたアサヒブランドの売上を順調に拡大し、当地域でのプレゼンスの向上を図りました。

以上の結果により、酒類事業の売上高は、前年同期比5.2%減の4,090億円となりました。また、営業利益は、主に広告宣伝費及び販売促進費を中心とした固定費の効率化などにより、前年同期比0.8%増の234億5千9百万円となりました。

飲料事業

(国内飲料事業)

国内飲料事業においては、中核会社である「アサヒ飲料株式会社」が、「成長戦略」「構造改革」を基本戦略として、飛躍的な成長の実現に向けた取り組みを実施しました。

成長戦略の根幹をなす商品戦略では、基幹ブランドである『ワンダ』『三ツ矢』『十六茶』を中心にマーケティング投資を集中し、継続的なブランドの強化・育成を推進しております。また、5月には「甘さうれしい、糖類ゼロ。」をコンセプトとした紅茶飲料『アサヒ Tea O (ティオ)』と、着色料ゼロ・カフェインゼロ・保存料ゼロの素材派コーラ『アサヒ グリーンコーラ』を発売いたしました。しかしながら、景気低迷による影響で自動販売機の販売が低迷したため、同社の売上数量は前年同期比0.7%減となりました。

構造改革面では、原材料価格の抑制に努めるとともに、茨城工場において新たにペットボトル内製設備を含む最新鋭の製造ラインを導入し、品質の向上と一層の収益構造の改革に取り組みました。

なお、同社は5月に「ハウス食品株式会社」より『六甲のおいしい水』ブランドで展開するミネラルウォーターの製造及び販売事業(六甲工場、灘採水場の土地建物設備を含む)を取得し、7月より全国で新発売いたしました。

(国際飲料事業)

国際飲料事業につきましては、中国の「康師傅飲品控股有限公司」が引き続き好調に推移し、また、韓国の「ヘテ飲料株式会社」においては、基幹ブランドの再構築などの成長戦略や収益性の向上への取り組みを推し進めました。更に、「SCHWEPES AUSTRALIA PTY LIMITED」においては、新ブランドの投入や既存ブランドの強化に積極的に投資を行うなど、オーストラリア市場における地位向上のための施策を実行いたしました。

以上の結果、飲料事業の売上高は、昨年4月に買収した「SCHWEPES AUSTRALIA PTY LIMITED」の業績が6ヶ月分寄与(昨年は3ヶ月)したことにより、前年同期比10.9%増加の1,813億8千5百万円となりました。営業損益は、「アサヒ飲料株式会社」の増益や、「SCHWEPES AUSTRALIA PTY LIMITED」の1-3月の利益が上乗せになったことなどにより、前年同期に比べ13億6千4百万円増加し、9億7千6百万円の損失となりました。

食品事業

食品事業につきましては、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」においてミント系錠菓『ミンティア』、サプリメント『ディアナチュラ』、ダイエットサポート食品『スリムアップスリム』等の主要商品が前年同期比2桁増を達成したことにより、大幅な売上増となりました。

また、「和光堂株式会社」においては、主力のベビーフードではレトルトパウチ食品『グーグーキッチン』や幼児向けおやつ『すまいるぼけっと』が引き続き、好調に推移し、売上高、利益ともに拡大することができました。

「天野実業株式会社」は通信販売事業の新規会員の増加に伴い、定番のお味噌汁セットが2桁増で伸張したことに加えて、昨年発売した『にゅうめん』と『瞬間美食カレー』が大きく成長し、前期に引き続き売上高を拡大することができました。

以上の結果、食品事業の売上高は、前年同期比3.3%増加の455億8千4百万円となりました。営業利益も各社が固定費の効率的運用に努めたことなどにより、前年同期比351.5%増加の13億6千3百万円となりました。

その他事業

その他事業につきましては、ほぼ計画通りに推移し、売上高は前年同期比1.0%増加の314億4千1百万円、営業利益は前年同期に比べ31.7%増の2億7千3百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて453億5千1百万円減少しました。これは、主に受取手形及び売掛金や有形固定資産が減少したことによるものです。なお、受取手形及び売掛金の減少は、最も大きい会計年度末に比べて減少する季節的な要因によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて472億2千3百万円減少しました。これは、主に借入金等の返済による金融債務（短期借入金、1年内償還予定の社債、コマーシャル・ペーパー、社債、長期借入金の合計）の減少や、支払手形及び買掛金、未払法人税等の減少によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ18億7千2百万円増加しました。これは、主に豪ドルなどの為替変動に伴い為替換算調整勘定が減少したものの、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の40.0%から41.5%に増加しました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は133億8千1百万円となり、前連結会計年度末に比べて47億円減少しました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは401億1千1百万円の収入となりました。前年同期との比較では、税金等調整前四半期純利益は減少したものの、前期に計上した関係会社株式売却益がなくなったことや、減価償却費の増加、売上債権やその他の資産負債の増減などにより運転資金が増加したことなどにより、100億3千6百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産や投資有価証券の取得や、国内飲料事業において事業譲受による支出などを行い、232億7千3百万円の支出となりました。前年同期との比較では、前期にオーストラリアの飲料事業取得や「青島啤酒股份有限公司」株式の取得などの大型のM&A支出を実施した反動により、1,255億7千3百万円の支出減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、金融債務の返済や配当金の支払いなどを行い212億3百万円の支出となりました。前年同期との比較では、大型のM&Aを実施せず、営業活動で獲得したキャッシュ・フローを金融債務の返済にあてたため、1,457億5千1百万円の支出増となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

景気低迷による生活防衛意識の高まりや天候不順の影響を受けた国内酒類事業の状況などを踏まえ、平成22年2月8日に公表しました業績予想の修正を行っております。

	アサヒビールグループ	
売上高	1,487,000百万円	(前年同期比 1.0%増)
営業利益	93,000百万円	(前年同期比 12.3%増)
経常利益	100,000百万円	(前年同期比 10.4%増)
当期純利益	52,000百万円	(前年同期比 9.1%増)

	アサヒビール(株)	
売上高	963,000百万円	(前年同期比 2.3%減)
営業利益	83,000百万円	(前年同期比 5.7%増)

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

一部の連結子会社は、当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

・繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

・棚卸資産の評価方法

当社及び一部の連結子会社は、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①会計基準等の改正に伴う変更

(「企業結合に関する会計基準」等の適用)

当第2四半期連結会計期間より「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

②①以外の変更

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,803	19,583
受取手形及び売掛金	240,177	274,558
商品及び製品	77,218	64,499
原材料及び貯蔵品	29,762	32,943
繰延税金資産	11,469	11,175
その他	32,423	32,952
貸倒引当金	△4,819	△7,665
流動資産合計	401,035	428,047
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	418,654	416,590
減価償却累計額	△232,347	△227,437
建物及び構築物(純額)	186,306	189,152
機械装置及び運搬具	531,219	531,835
減価償却累計額	△381,042	△370,910
機械装置及び運搬具(純額)	150,177	160,924
その他	139,427	136,608
減価償却累計額	△79,500	△78,393
その他(純額)	59,926	58,215
土地	184,454	184,433
建設仮勘定	5,695	6,382
有形固定資産合計	586,560	599,108
無形固定資産		
のれん	94,649	100,314
その他	38,423	40,427
無形固定資産合計	133,072	140,741
投資その他の資産		
投資有価証券	210,668	206,364
繰延税金資産	21,293	21,021
その他	41,827	42,701
貸倒引当金	△6,156	△4,332
投資その他の資産合計	267,633	265,755
固定資産合計	987,265	1,005,605
資産合計	1,388,301	1,433,652

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	86,131	100,998
短期借入金	76,622	141,220
1年内償還予定の社債	15,000	15,000
未払酒税	115,007	123,470
未払法人税等	12,767	24,096
預り金	19,920	20,429
コマーシャル・ペーパー	75,000	30,000
賞与引当金	2,819	2,559
その他	118,079	116,005
流動負債合計	521,348	573,780
固定負債		
社債	135,150	130,156
長期借入金	73,835	75,499
退職給付引当金	24,391	24,252
役員退職慰労引当金	561	602
繰延税金負債	4,850	4,860
その他	48,588	46,798
固定負債合計	287,377	282,169
負債合計	808,726	855,949
純資産の部		
株主資本		
資本金	182,531	182,531
資本剰余金	150,955	151,048
利益剰余金	262,576	252,146
自己株式	△28,976	△29,283
株主資本合計	567,087	556,443
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,882	2,444
繰延ヘッジ損益	—	△6
為替換算調整勘定	7,582	14,591
評価・換算差額等合計	9,464	17,029
少数株主持分	3,022	4,229
純資産合計	579,574	577,702
負債純資産合計	1,388,301	1,433,652

(2) 四半期連結損益計算書
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
売上高	670,156	667,411
売上原価	436,680	424,307
売上総利益	233,475	243,103
販売費及び一般管理費	211,995	218,410
営業利益	21,479	24,692
営業外収益		
受取利息	158	156
受取配当金	991	887
持分法による投資利益	5,569	5,090
その他	3,235	834
営業外収益合計	9,954	6,968
営業外費用		
支払利息	2,180	2,242
その他	1,423	1,554
営業外費用合計	3,604	3,797
経常利益	27,829	27,864
特別利益		
固定資産売却益	670	641
投資有価証券売却益	336	1,658
関係会社株式売却益	16,092	—
貸倒引当金戻入額	510	714
持分変動利益	—	726
その他	—	63
特別利益合計	17,609	3,803
特別損失		
固定資産除売却損	2,285	2,401
投資有価証券売却損	2	5
投資有価証券評価損	525	844
減損損失	760	—
関係会社整理損	—	390
その他	—	1,219
特別損失合計	3,574	4,860
税金等調整前四半期純利益	41,865	26,807
法人税等	18,717	12,343
少数株主利益又は少数株主損失(△)	1,093	△1,080
四半期純利益	22,053	15,544

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	41,865	26,807
減価償却費	27,922	29,672
減損損失	760	—
のれん償却額	2,273	3,004
退職給付引当金の増減額(△は減少)	400	1,042
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△576	△914
受取利息及び受取配当金	△1,149	△1,044
支払利息	2,180	2,242
持分法による投資損益(△は益)	△5,569	△5,090
投資有価証券評価損益(△は益)	525	844
関係会社株式売却損益(△は益)	△16,092	—
固定資産除売却損益(△は益)	1,615	1,759
売上債権の増減額(△は増加)	29,439	33,118
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,372	△10,267
仕入債務の増減額(△は減少)	△15,263	△14,161
未払酒税の増減額(△は減少)	△8,856	△8,460
その他	△3,605	2,535
小計	49,497	61,086
利息及び配当金の受取額	5,422	5,757
利息の支払額	△2,136	△2,054
法人税等の支払額	△22,707	△24,679
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,075	40,111
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△14,009	△12,330
有形固定資産の売却による収入	2,331	843
無形固定資産の取得による支出	△21,733	△2,054
投資有価証券の取得による支出	△76,448	△5,924
投資有価証券の売却による収入	38,437	2,568
子会社株式の取得による支出	△15,360	△41
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△60,926	—
営業譲受による支出	—	△5,339
貸付けによる支出	△1,892	△826
貸付金の回収による収入	1,422	1,511
その他	△667	△1,680
投資活動によるキャッシュ・フロー	△148,846	△23,273

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	144,089	2,302
リース債務の返済による支出	—	△1,284
長期借入れによる収入	3,412	137
長期借入金の返済による支出	△18,756	△22,318
社債の発行による収入	—	20,000
社債の償還による支出	—	△15,000
自己株式の取得による支出	△18	△11
配当金の支払額	△4,880	△5,115
少数株主からの払込みによる収入	542	—
その他	160	86
財務活動によるキャッシュ・フロー	124,548	△21,203
現金及び現金同等物に係る換算差額	366	△337
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,144	△4,702
現金及び現金同等物の期首残高	12,697	18,082
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	475	—
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	2
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,317	13,381

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)

(単位：百万円)

	酒類	飲料	食品・薬品	その他	合計	消去又は 全社	連結
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	431,291	163,626	44,115	31,123	670,156	—	670,156
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,937	1,098	954	25,126	36,116	(36,116)	—
計	440,228	164,724	45,069	56,249	706,273	(36,116)	670,156
営業費用	416,950	167,066	44,767	56,042	684,827	(36,150)	648,676
営業利益又は営業損失(△)	23,278	△2,341	302	207	21,445	33	21,479

(注) 1. 事業区分は、製品の種類、性質により区分しております。

2. 各事業の主な製品
- (1) 酒 類……………ビール、発泡酒、焼酎、ウイスキー他
 - (2) 飲 料……………清涼飲料他
 - (3) 食品・薬品……………食品事業、薬品事業
 - (4) そ の 他……………不動産事業、外食事業、卸事業、物流事業他

3. 当第2四半期連結累計期間における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額はありません。

4. セグメント別資産の著しい金額の変動

当第2四半期連結会計期間において、Schweppes Holding Pty Ltdの全株式を取得したことにより、飲料事業の資産が79,764百万円増加しております。また、青島啤酒股份有限公司の株式取得に伴い、全社資産が75,514百万円増加しております。

5. 会計処理の原則・手続、表示方法の変更

「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用

第1四半期連結会計期間から「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日企業会計基準第9号)を適用し、評価基準について原価法から原価法(収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)に変更しております。この結果、従来の方法によった場合と比較して、当第2四半期連結累計期間の営業利益が酒類事業で255百万円、食品・薬品事業で86百万円、その他事業で1百万円それぞれ減少し、営業損失が飲料事業で498百万円増加しております。

6. 追加情報

有形固定資産の耐用年数の変更

当社及び国内連結子会社は、平成20年の法人税改正を契機として資産の利用状況等を見直した結果、第1四半期連結会計期間より有形固定資産の耐用年数を変更しております。この結果、従来の方法によった場合と比較して、当第2四半期連結累計期間の営業利益が酒類事業で3,103百万円、その他事業で0百万円減少、食品・薬品事業で40百万円増加し、営業損失が飲料事業で10百万円増加しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年6月30日)

(単位:百万円)

	酒類	飲料	食品	その他	合計	消去又は 全社	連結
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	409,000	181,385	45,584	31,441	667,411	—	667,411
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,235	967	899	24,930	34,031	(34,031)	—
計	416,235	182,352	46,483	56,371	701,442	(34,031)	667,411
営業費用	392,776	183,329	45,119	56,097	677,323	(34,605)	642,718
営業利益又は営業損失(△)	23,459	△976	1,363	273	24,119	573	24,692

(注) 1. 事業区分は、製品の種類、性質により区分しております。

2. 各事業の主な製品 (1)酒 類……………ビール、発泡酒、焼酎、ウイスキー他

(2)飲 料……………清涼飲料他

(3)食 品……………食品事業、薬品事業

(4)そ の 他……………不動産事業、外食事業、卸事業、物流事業他

3. 当第2四半期連結累計期間における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額はありません。

4. 第1四半期連結会計期間より、従来の「食品・薬品」について「食品」へ名称を変更いたしました。

なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 追加情報
(1) 補足資料

2010年（H22年）第2四半期決算

補 足 資 料

アサヒビール株式会社

2010年7月

財務ハイライト(2007年～2010年第2四半期)

【連結決算】

(億円)

	2007年第2Q	2008年第2Q	2009年第2Q	2010年第2Q	前年比・増減
	(H19年)	(H20年)	(H21年)	(H22年)	
売上高 (酒税額 ※連結合計)	6,726 (2,209)	6,661 (2,115)	6,702 (2,034)	6,674 (1,896)	△ 0.4% (△ 6.8%)
売上原価	4,397	4,316	4,367	4,243	△ 2.8%
売上総利益	2,329	2,346	2,335	2,431	4.1%
販管費 (のれん等償却費)	2,098 (12)	2,039 (20)	2,120 (23)	2,184 (28)	3.0% 22.8%
営業利益	231	307	215	247	15.0%
金融収支	△ 11	△ 16	△ 10	△ 12	-
その他収支	46	50	74	44	△ 40.8%
経常利益	266	341	278	279	0.1%
特別利益	15	16	176	38	△ 78.4%
特別損失	43	23	36	49	36.0%
税前利益	239	334	419	268	△ 36.0%
法人税等	95	154	187	123	△ 34.1%
少数株主損益	6	△ 9	11	△ 11	-
当期純利益	138	189	221	155	△ 29.5%
総資産	13,128	12,935	14,336	13,883	△ 453
自己資本	4,937	5,084	5,534	5,766	231
金融債務残高	3,074	3,390	4,307	3,756	△ 551
売上高営業利益率	3.4%	4.6%	3.2%	3.7%	0.5%
(酒税抜き営業利益率)	5.1%	6.8%	4.6%	5.2%	0.6%
ROE	2.8%	3.7%	4.1%	2.7%	△ 1.4%
設備投資額	199	138	168	127	△ 41
減価償却費	227	235	279	275	△ 4

注)設備投資額及び減価償却費には、リース資産及び豪州子会社取得時、商標権は含めておりません。

【単体決算】

(億円)

	2007年第2Q	2008年第2Q	2009年第2Q	2010年第2Q	前年比・増減
	(H19年)	(H20年)	(H21年)	(H22年)	
売上高 (酒税額 ※単体合計)	4,593 (2,201)	4,550 (2,108)	4,433 (2,028)	4,207 (1,891)	△ 5.1% (△ 6.7%)
売上原価	3,269	3,244	3,184	2,979	△ 6.4%
売上総利益	1,323	1,305	1,249	1,228	△ 1.7%
販管費	1,119	998	1,018	995	△ 2.3%
営業利益	204	307	231	233	0.8%
売上高営業利益率	4.4%	6.7%	5.2%	5.5%	0.3%
(酒税抜き営業利益率)	8.5%	12.6%	9.6%	10.1%	0.5%
金融債務残高	2,351	2,658	3,748	3,419	△ 329
設備投資額	141	91	67	60	△ 7
減価償却費	165	171	199	192	△ 7

注)設備投資額及び減価償却費には、リース資産及び豪州子会社取得時、商標権は含めておりません。

注)単体決算数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

連結決算(第2四半期)

1:売上高(個別会社別)

(億円)

	2010年第2Q (H22年)	2009年第2Q (H21年)	前年比・増減	
			△	△
アサヒビール	4,207	4,433	△ 226	△ 5.1%
酒類事業	4,207	4,433	△ 226	△ 5.1%
アサヒ飲料	1,327	1,341	△ 14	△ 1.0%
エルビー2社	106	108	△ 1	△ 1.0%
飲料事業	1,434	1,449	△ 15	△ 1.0%
アサヒフード&ヘルスケア	226	215	11	5.1%
和光堂	174	170	4	2.2%
天野実業	79	75	4	5.1%
食品事業	479	460	18	4.0%
シュウエップス	314	123	191	155.3%
ヘテ飲料	102	98	3	3.4%
中国事業計	53	56	△ 3	△ 5.7%
その他	10	9	0	4.8%
国際事業	478	287	192	66.8%
その他	76	72	4	5.5%
(酒税額 ※連結合計)	(1,896)	(2,034)	(△ 137)	(△ 6.8%)
合計	6,674	6,702	△ 27	△ 0.4%

2:営業利益(個別会社別)

(億円)

	2010年第2Q (H22年)	2009年第2Q (H21年)	前年比・増減	
			△	△
アサヒビール	233	231	2	0.8%
酒類事業	233	231	2	0.8%
アサヒ飲料	28	26	2	6.4%
エルビー2社	2	3	△ 1	△ 23.6%
飲料事業	31	30	1	3.2%
アサヒフード&ヘルスケア	8	△ 1	8	-
和光堂	9	8	1	17.4%
天野実業	2	1	0	13.0%
食品事業	19	9	10	111.2%
シュウエップス	8	△ 4	12	-
ヘテ飲料	△ 14	△ 15	1	-
中国事業計	△ 9	△ 13	5	-
その他	△ 0	△ 0	0	-
国際事業	△ 15	△ 32	18	-
その他	△ 21	△ 22	2	-
(内のれん等償却費)	(△ 36)	(△ 34)	(△ 2)	-
合計	247	215	32	15.0%

注)上記の事業別業績は、個別会社の積み上げであり、セグメント別利益とは異なります。

3: 利益増減要因

(億円)

	2010年第2Q (H22年)	2009年第2Q (H21年)	利益増減	備考
売上総利益	2,431	2,335	96	豪SW 81
販売費及び一般管理費	2,184	2,120	△ 64	
販促費	1,039	1,015	△ 25	
(販売奨励金等)	(744)	(716)	(△ 28)	AB 8、飲料△29、豪SW△5
(広告宣伝費)	(296)	(298)	(3)	
減価償却費	68	49	△ 20	飲料△12、豪SW△6
のれん償却費	28	23	△ 5	
その他	1,049	1,034	△ 15	
営業利益	247	215	32	
営業外損益	32	63	△ 32	
金融収支	△ 12	△ 10	△ 2	
その他収支	44	74	△ 30	
(持分法投資損益)	(51)	(56)	(△ 5)	(内のれん等償却費18←8)
(その他)	(△ 7)	(18)	(△ 25)	為替差損益△15他
経常利益	279	278	0	
特別損益	△ 11	140	△ 151	
貸倒引当金戻入益	7	5	2	
関係会社株式売却益	-	161	△ 161	
持分変動利益	7	-	7	
固定資産売却除却損益	△ 18	△ 16	△ 1	
投資有価証券評価損等	8	△ 2	10	
関係会社関連費用	△ 4	△ 0	△ 3	
減損損失	-	△ 8	8	
その他特別損益	△ 12	-	△ 12	
税引前利益	268	419	△ 151	
法人税等	123	187	64	
少数株主損益	△ 11	11	22	
当期純利益	155	221	△ 65	

注) AB : アサヒビール
飲料 : アサヒ飲料
AFH : アサヒフード&ヘルスカフ
豪SW : シュウェップス・オーストラリア

4: 要約貸借対照表と増減事情

(億円)

	2010年第2Q (H22年)	2009年期末 (H21年)	増減	備考
流動資産	4,010	4,280	△ 270	
現金及び預金	148	196	△ 48	
売上債権	2,402	2,746	△ 344	
棚卸資産	1,070	974	95	
貸倒引当金	△ 48	△ 77	28	
その他	439	441	△ 2	
固定資産	9,873	10,056	△ 183	
有形固定資産	5,866	5,991	△ 125	
無形固定資産	1,331	1,407	△ 77	
投資有価証券	2,107	2,064	43	
貸倒引当金	△ 62	△ 43	△ 18	
その他資産	631	637	△ 6	
資産合計	13,883	14,337	△ 454	
流動負債	5,213	5,738	△ 524	
仕入債務	861	1,010	△ 149	
金融債務	1,666	1,862	△ 196	CP450、短期借入金△646
未払酒税	1,150	1,235	△ 85	
その他	1,536	1,631	△ 95	
固定負債	2,874	2,822	52	
金融債務	2,090	2,057	33	社債50、長期借入金△17
その他負債	784	765	19	
負債合計	8,087	8,559	△ 472	
資本金	1,825	1,825	-	
資本剰余金	1,510	1,510	△ 1	
利益剰余金	2,626	2,521	104	
自己株式	△ 290	△ 293	3	
繰延ヘッジ損益	-	△ 0	0	
有価証券評価差額	19	24	△ 6	
為替換算調整勘定	76	146	△ 70	
少数株主持分	30	42	△ 12	
純資産合計	5,796	5,777	19	
負債純資産合計	13,883	14,337	△ 454	

単体決算(第2四半期)

1: 売上の状況

(万箱)

	2010年第2Q	2009年第2Q	前年比・増減	
	(H22年)	(H21年)		
ビール	4,952	5,299	△ 347	△ 6.5%
発泡酒	885	1,311	△ 426	△ 32.5%
新ジャンル	1,687	1,361	326	24.0%
売上箱数	7,525	7,971	△ 446	△ 5.6%

(億円)

ビール	2,628	2,810	△ 182	△ 6.5%
発泡酒	340	502	△ 162	△ 32.3%
新ジャンル	558	451	108	23.9%
ビール・発泡酒・新ジャンル計	3,526	3,763	△ 237	△ 6.3%
焼酎	237	242	△ 5	△ 2.0%
低アルコール飲料	140	146	△ 7	△ 4.7%
洋酒	133	122	11	9.1%
ワイン	51	56	△ 5	△ 8.8%
その他酒類等	17	14	3	23.0%
総合酒類計	578	580	△ 2	△ 0.4%
受託製造	94	81	13	16.0%
不動産他	9	9	△ 0	△ 2.4%
(酒税額 ※単体合計)	(1,891)	(2,028)	(△ 136)	(△6.7%)
売上金額	4,207	4,433	△ 226	△ 5.1%

注) 売上箱数は輸出を除く国内売上箱数

2: 利益増減要因

(億円)

	2010年第2Q	2009年第2Q	利益増減	備考
	(H22年)	(H21年)		
<主な増減要因>				
ビール類数量増減(※)	-	-	△ 66	
総合酒類部門売上減	-	-	△ 1	
製造原価コストダウン	-	-	31	
物流関係コストダウン	-	-	1	
製造原価コストアップ	-	-	△ 3	
容器構成差	-	-	0	
販促費減	465	486	21	
(販売奨励金減)	(282)	(291)	(9)	
(広告費減)	(183)	(195)	(12)	
その他経費減	-	-	19	
(人件費減)	(240)	(245)	(5)	
(減価償却費減)	(192)	(199)	(7)	
(販売器具関係費減)	(47)	(47)	(0)	
(工場設備関係費減)	(26)	(28)	(2)	
(研究開発費増)	(32)	(32)	(0)	
(その他)	-	-	(5)	
営業利益	233	231	2	

(※) ビール△58、発泡酒△54、新ジャンル 46

(注) 単体決算数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

2010年（H22年）

業績予想

2010年7月

連結決算予想

1: 業績予想

(億円)

	2010年予想 (H22年)	2009年 (H21年)	前年比・増減	
売上高	14,870	14,725	145	1.0%
(酒税額 ※連結合計)	(4,324)	(4,523)	(△199)	(△4.4%)
売上総利益	5,334	5,140	194	(3.8%)
販売費及び一般管理費	4,404	4,312	92	(2.1%)
販促費	2,081	2,046	35	
(販売奨励金等)	(1,554)	(1,543)	(11)	
(広告宣伝費)	(527)	(503)	(24)	
減価償却費	148	119	29	
のれん償却費	56	51	5	
その他	2,119	2,096	23	
営業利益	930	828	102	12.3%
営業外損益	70	78	△8	△9.9%
金融収支	△28	△19	△10	
その他収支	98	96	2	
(持分法投資損益)	(110)	(85)	(25)	
(その他)	(△12)	(11)	(△23)	
経常利益	1,000	905	95	10.4%
特別損益	△91	△25	△66	
貸倒引当金戻入益	-	5	△5	
関係会社株式売却益	-	161	△161	
商品回収関連補償金	-	9	△9	
持分変動利益	7	9	△2	
固定資産売却除却損益	△81	△92	11	
投資有価証券評価損等	7	△5	11	
関係会社関連費用	△4	△4	0	
減損損失	-	△83	83	
退職給付信託設定損	-	△14	14	
その他特別損益	△20	△11	△10	
税引前利益	909	881	28	3.2%
法人税等	407	415	△8	
少数株主損益	△18	△10	△8	
当期純利益	520	476	44	9.1%
総資産	14,300	14,337	△37	-
金融債務残高	3,310	3,919	△609	-
売上高営業利益率	6.3%	5.6%	0.7%	-
(酒税抜き営業利益率)	8.8%	8.1%	0.7%	-
設備投資額	350	326	24	-
減価償却費	555	559	△4	-

注) 設備投資額及び減価償却費には、リース資産及び豪州子会社取得時、商標権は含めておりません。

2:売上高(個別会社別)

(億円)

	2010年予想 (H22年)	2009年 (H21年)	前年比・増減	
アサヒビール	9,630	9,855	△ 225	△ 2.3%
酒類事業	9,630	9,855	△ 225	△ 2.3%
アサヒ飲料	2,860	2,744	116	4.2%
エルビー2社	232	225	7	3.2%
飲料事業	3,092	2,969	123	4.2%
アサヒフード&ヘルスケア	470	441	29	6.5%
和光堂	375	362	13	3.5%
天野実業	166	160	6	3.8%
食品事業	1,011	963	48	4.9%
シュウェップス	681	466	216	46.4%
ヘテ飲料	200	192	8	4.3%
中国事業計	112	110	2	2.2%
その他	19	18	1	6.8%
国際事業	1,013	785	228	29.0%
その他	124	153	△ 29	△ 19.0%
(酒税額 ※連結合計)	(4,324)	(4,523)	(△ 199)	(△ 4.4%)
合計	14,870	14,725	145	1.0%

3:営業利益(個別会社別)

(億円)

	2010年予想 (H22年)	2009年 (H21年)	前年比・増減	
アサヒビール	830	785	45	5.7%
酒類事業	830	785	45	5.7%
アサヒ飲料	90	72	18	25.5%
エルビー2社	10	8	2	20.9%
飲料事業	100	80	20	25.0%
アサヒフード&ヘルスケア	19	10	9	83.6%
和光堂	24	22	2	9.5%
天野実業	6	5	1	29.5%
食品事業	49	37	12	32.7%
シュウェップス	44	24	19	78.4%
ヘテ飲料	△ 24	△ 29	5	-
中国事業計	△ 15	△ 23	8	-
その他	△ 0	△ 1	1	-
国際事業	4	△ 28	33	-
その他	△ 53	△ 46	△ 7	-
(内のれん等償却費)	(△ 76)	(△ 71)	(△ 5)	-
合計	930	828	102	12.3%

注)上記の事業別業績は、個別会社の積み上げであり、セグメント別利益とは異なります。

単体決算予想

1: 売上予想

(万箱)

	2010年予想 (H22年)	2009年 (H21年)	前年比・増減	
ビール	11,500	12,115	△ 615	△ 5.1%
発泡酒	1,800	2,511	△ 711	△ 28.3%
新ジャンル	3,900	3,068	832	27.1%
売上箱数	17,200	17,694	△ 494	△ 2.8%

(億円)

ビール	6,150	6,465	△ 315	△ 4.9%
発泡酒	692	962	△ 270	△ 28.1%
新ジャンル	1,291	1,016	275	27.1%
ビール・発泡酒・新ジャンル計	8,133	8,443	△ 310	△ 3.7%
焼酎	485	503	△ 18	△ 3.5%
低アルコール飲料	307	306	1	0.5%
洋酒	288	260	28	10.7%
ワイン	110	124	△ 14	△ 11.4%
その他酒類等	70	39	31	80.5%
総合酒類計	1,260	1,231	29	2.3%
受託製造	220	162	58	35.6%
不動産他	17	18	△ 1	△ 4.8%
(酒税額 ※単体合計)	(4,310)	(4,510)	(△ 200)	(△ 4.4%)
売上金額	9,630	9,855	△ 225	△ 2.3%

注)売上箱数は輸出を除く国内売上箱数

2: 利益増減要因

(億円)

	2010年予想 (H22年)	2009年 (H21年)	利益増減	備考
<主な増減要因>				
ビール類数量増減(※)	-	-	△ 75	
総合酒類部門売上増	-	-	9	
製造原価コストダウン	-	-	68	
物流関係コストダウン	-	-	2	
製造原価コストアップ	-	-	△ 8	
容器構成差	-	-	2	
販促費減	953	973	20	
（販売奨励金減）	(616)	(641)	(25)	
（広告費増）	(337)	(332)	(△ 5)	
その他経費減	-	-	27	
（人件費減）	(474)	(484)	(10)	
（減価償却費減）	(381)	(391)	(10)	
（工場設備関係費減）	(53)	(54)	(1)	
（販売器具関係費減）	(99)	(99)	(0)	
（研究開発費増）	(66)	(66)	(0)	
（その他）	-	-	(6)	
営業利益	830	785	45	

(※)ビール△102、発泡酒△89、新ジャンル 116

【参考資料】

2010年第2四半期決算（アサヒ飲料）

	2010年第2Q (H22年)	2009年 第2Q (H21年)	前年比	
炭酸飲料	1,962	1,964	△2	△0.1%
果実飲料	538	515	24	4.6%
コ－ヒ－飲料	1,792	1,855	△63	△3.4%
お茶飲料	1,681	1,566	115	7.4%
健康・機能性飲料	304	348	△44	△12.7%
ミネラルウォーター	258	310	△52	△16.7%
その他の飲料	31	37	△6	△16.5%
仕入品	531	555	△24	△4.3%
合計	7,097	7,149	△52	△0.7%

	2010年第2Q (H22年)	2009年 第2Q (H21年)	前年比		備考
炭酸飲料	349	353	△4	△1.2%	
果実飲料	89	88	1	1.5%	
コ－ヒ－飲料	387	402	△15	△3.7%	
お茶飲料	278	251	27	10.6%	
健康・機能性飲料	55	63	△8	△13.3%	
ミネラルウォーター	43	51	△8	△16.6%	
その他の飲料	18	18	0	0.1%	
仕入品	109	115	△6	△5.3%	
売上高	1,327	1,341	△14	△1.0%	
販売数量減	-	-	△10		
製造原価コストアップ	-	-	△3		
コストダウン	-	-	30		PET内製化+5億円、原材料+17億円 他
品種・容器構成差	-	-	2		
広告・販促費増	-	-	△23		販促費△20億円 広告費△1億円 他
その他の経費減	-	-	7		販売器具費 他
営業利益	28	26	2	6.4%	

2010年通期予想（アサヒ飲料）

	2010年予想 (H22年)	2009年 (H21年)	前年比		備考
炭酸飲料	4,200	4,124	76	1.8%	
果実飲料	1,090	1,113	△23	△2.1%	
コ－ヒ－飲料	3,630	3,690	△60	△1.6%	
お茶飲料	3,480	3,117	363	11.7%	
健康・機能性飲料	590	698	△108	△15.4%	
ミネラルウォーター	1,340	633	707	111.6%	「六甲のおいしい水」700万函含む
その他の飲料	110	104	6	6.1%	
仕入品	1,160	1,195	△35	△3.0%	
合計	15,600	14,674	926	6.3%	

	2010年予想 (H22年)	2009年 (H21年)	前年比		備考
炭酸飲料	748	739	9	1.2%	
果実飲料	182	188	△6	△3.2%	
コ－ヒ－飲料	786	797	△11	△1.3%	
お茶飲料	576	501	75	14.9%	
健康・機能性飲料	104	124	△20	△16.2%	
ミネラルウォーター	179	105	74	71.0%	
その他の飲料	45	42	3	6.9%	
仕入品	240	248	△8	△3.1%	
売上高	2,860	2,744	116	4.2%	
販売数量増	-	-	21		
製造原価コストアップ	-	-	△11		原料△3億円、資材△2億円 他
コストダウン	-	-	42		PET内製化+11億円、原材料+22億円 他
品種・容器構成差	-	-	9		
広告・販促費増	-	-	△26		販促費△20億円 広告費△5億円 他
その他の経費増	-	-	△16		減価償却費、修繕費、物流費 他
営業利益	90	72	18	25.5%	